

会 議 録

会議の名称	平成23年度 第1回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成23年(2011年)6月29日(水)18時~20時		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	☒・不可・一部不可
事務局	生涯学習推進室 岡町図書館	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	三木晴美 船曳弘栄 上口佐知子 鵜川まき 中川幾郎 塩見昇 村上泰子 宮崎宏之	
	事務局	生涯学習推進部長 地域教育推進室長 読書振興課主幹 岡町図書館長 千里図書館長 野畑図書館長 庄内図書館長 岡町図書館副館長2名 岡町図書館 副主幹3名 岡町図書館主査	
	その他		
議題	1 事務局からの報告 1-1 機構改革について・・・読書振興課について 1-2 とよなかブックプラネット事業について 2 豊中市立図書館の課題解決支援機能について 3 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成23年度（2011年度）図書館協議会

日時：平成23年（2011年）6月29日（水）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 三木 船曳 上口 鶴川 中川（委員長） 塩見 村上 宮崎

事務局 羽間 山羽 山本 古川 大原 北風 堀野 江口 内田 中田 須藤 松井 西口

開会

資料確認

委員（欠席者）の紹介

●事務局

平成23年度第1回豊中市図書館協議会を開催する。

本日は平成23年度の第1回の協議会であるが、今回の諮問について現委員により開催される協議会としては最終回となる。

●委員長

最初は事務局からの報告事項である。内容は機構改革と豊中ブックプラネット事業についてである。

●事務局

本年4月に実施された機構改革について、前回は読書振興課と公共図書館の関係についてわかりづらいというご意見をいただいた。今回は、機構改革により新たに設置された読書振興課の事務分掌規則ならびに図書館規則の新旧対象表を資料として配布させていただいた。

まず豊中市教育委員会事務局事務分掌規則の新旧対照表をご覧ください。読書振興課の所掌事務については、8項目記載されている。前回もご説明したように、読書振興課については学校図書館と公共図書館の一層の連携がすすむことを設置目的の一つとしており、読書振興に関わる企画調整や図書館間の連絡調整の他、学校図書館教育の支援に関わることや両方の図書館司書の職員研修などが、明記されている。次に図書館規則については、本市の公共図書館の図書館条例第1条において、図書館法に基づく図書館を設置するとまず明記されており、機構上は読書振興課に属してはいるが、公共図書館は教育機関として、その運営については従来通り岡町図書館を代表館に据えながら、図書館法や図書館規則に関わる部分について、館長に権限が委任されている。同様の趣旨から、岡町図書館の旧の係については読書振興課の係とならないように、係を廃止した。以上のことから、基本的に読書振興課は学校司書及び課の総務および経理を預かり、政策企画調整を行うことにより、教育機関である図書館の負担を軽くする為の組織として機能することが最も重要であると認識している。

●委員長

機構改革について説明を受けたが、ご質問ご意見等はよろしいか。後からでもお気づきの点は出して

いただきたい。続いて「とよなかブックプラネット事業」について事務局からの報告である。

●事務局

それでは「とよなかブックプラネット事業」について、お手元の資料に沿ってご報告申し上げたい。昨年度アンケート等の調査を通じ概念設計を行い、今後学校図書館の目指していく姿として、3つあげている。児童・生徒の「自ら考え解決する力」を育成すること。児童・生徒が「読書習慣」を身につけること。教員の学習指導を支援し、授業の質を高めること。以上の3つの姿を目指しながら、今後学校図書館の活性化を目指し取組みを進めていく。この目指す姿を実現するために、より詳しい設計に取り組んでいるところである。「人のネットワーク・物流のネットワーク・情報のネットワーク・学校図書館支援機能」の4つの視点を持ちながら取組みを進めていきたいと考えている。

それぞれのネットワークを構築する中で、学校図書館の環境整備を行い、読書活動を活性化させていきたいと考えているが、「人のネットワーク」については、学校図書館の位置付けをさらに学校の中で確認していくために、学校の態勢としてあるいは学校の関係者の連携協力のもとで、学校図書館をしっかりと活用していく必要があると考えている。今年度は読書振興課に学校司書が所属することになったという事もあり、今まで以上に公共図書館と学校図書館の司書間連携を深めながら、学校図書館教育の支援を強めていけたらと考えている。

物流については、すでに週1回学校に公共図書館あるいは学校図書館間の資料が届くようなシステムとなっているが、まだ充分とは言えないため、物流システムを充実させるとともに、公共図書館から学校図書館を資料支援できるシステムを作っていけたらと考えている。

3つ目の「情報のネットワーク」については、ご承知のように本市の学校図書館には蔵書管理システムが入っていないため、これを入れる事が大きな目的だが、先程申し上げたように学校図書館を更に活性化していく上では、教職員への支援も必要かと思っており、先生方に学校図書館を活用した事例等をそのシステムの中に入れてもらってデータベース化すること、あるいは司書同士の連携を深めるという意味では、情報共有システムを入れること、そのような機能を入れながら豊中版のシステムを構築していけたらと考えている。

最後の4番目としては、以上3つそれぞれ別々にネットワークを作っていたものが確立すると、統合的に支援・管理していく機能が必要になってくる。そういう事について、さらに今後どうしていくかという検討をしていく必要があると考えている。

裏面には、ここ3年間どういう計画でそのようなネットワークの構築なり支援機能を作っていくかという簡単な計画を書かせていただいた。詳細設計をしながらも出来るところからやっぺいこうということで、学校図書館と公共図書館の司書の連携を深めるという意味から、月1回学校司書の連絡会を行っているところに、公共図書館から積極的に入って行き相互の情報共有をするという事をしている。

3番目の「情報のネットワーク」に関しては、今後学校図書館に蔵書管理システムを入れていく上で基本となる、学校の蔵書のデータ化を7月から着手していくことになっている。これは、学校図書館の蔵書にバーコードを貼り、書誌データを取り込んでいくという作業で、学校数が59校と多いながらも、全校対象に今年度進めていこうと、委託事業で取り組むことになっている。

それから最後に、「とよなかブックプラネット事業推進委員会」の設置要綱についてご説明申し上げる。今申し上げたネットワーク構築のための詳細設計にあたり、その支援に回る生涯学習推進部と学校教育

の根幹を担っていく教育推進部が連携を図っていかなければ、この事業は中身が伴わないことになってしまいかねないと懸念し、両方を跨ぐ推進委員会を今年度から立ち上げた。委員長には教育次長が就任し、生涯学習と教育推進の両方の関係者が関わることになっている。詳細については、先程申しあげた3つのネットワーク構築のためにワーキンググループを設け、そこで詰めていくという形で意見交換等を進めている。ワーキンググループでは、学校教育と生涯学習が連携をして取組んでいけるようメンバーの設定をし、互いに連携を深めながらしっかりとした詳細設計につながるよう、現在取組みを進めている。

●委員長

ただいま2件報告があったが、最初の報告事項も含め何かご質問やご意見等あればいただきたい。質問等は最後に出していただいてもかまわない。

それでは引き続き、議題2の「豊中市立図書館の課題解決支援機能について」中間まとめの素案がお手元に届いていると思う。事務局から説明をどうぞ。

●事務局

前回は2月の28日に図書館協議会が開催され、その協議会の席上で「意見書素案」についてご意見をいただいた。そのご意見をもとに、一旦は「意見書素案」に修正を加える方向を検討したが、後日各委員さんから頂戴したご意見等をもとに、再度今回の諮問内容について6回の協議会を振り返り、委員長と委員長代行にご相談させていただいた。そこで今回お手元にお届けした「中間まとめ案」となった。協議会開催直前の送付になり、大変申し訳ない。

「中間まとめ案」の構成は、1が今回の諮問の趣旨について、2は豊中市立図書館の取組みについて協議会が受けた報告内容、3はその報告を受けて、図書館協議会からの意見、4まとめ、となっている。また、今月末で委員の方の任期が満了になるが、今回の議事に関するまとめまで、現在の委員の方々のご協力をいただきたくお願い申しあげる。本日はこの「中間まとめ案」にもとづき、更にご討議いただき、ご意見を頂戴出来ればありがたい。

●委員長

前回以降三名の委員さんからご意見をいただいております、そのご意見も加味しながら、さらに加工修正の作業をしていきたい。それではこの課題解決支援サービスについての「中間まとめ案」についてご意見を伺いたい。

●委員

構成を変えたことについては、意見を申し上げたとおり「意見書」として出すにはまだ十分に議論を尽くせていないという思いがあるので、こういう形で「中間のまとめ」としたのはよかった。ただ、細かいところが気になっているが、今申し上げてよろしいか。

●委員長

細かいところは、メモで済ませてもらってもいいと思う。

●委員

大きな形として気になるのは、2は図書館からこのような報告を受けたという形で項目がいくつかに分かれて書かれているところだが、この文章の書き方は図書館がこういう風に報告したと書いてあり、例えば一つ目のビジネス支援も「市民に提供していけるよう取り組んで行きたいと考えております。」と図書館が書いている作りになっている。それで構わないのかということが気になる。直してほしいというほどでもないが、協議会としてこう報告を受けましたという書き方もできるので、それが図書館側の書いた文章の体裁で入っていると、タイトルの下に「このように報告を受けました」とあっても、読んでいる途中でこの文章かわからなくなりそうな感じがした。その書き方がいいのかどうか、ということが一つである。読んでいる途中で不安になるような気がするのでそのへんをちょっと直したほうが良いと思う。それが大きなもので、あとは細かいところで、いくつか一つの単元の中で同じ事を最初に書いて後でまとめるように書くところが気になる。それらの整理がもう少し必要な気がする。

例えばビジネス支援の最後のほうで、「千里地域だけではなく、豊中市全域に対するビジネス関連のレファレンスの拠点としての役割にも取り組んでいくことを、目標としています。」と書いた後に「全域に目を転じると」と書いて庄内の事を少し書いて、やっぱり最後は「全館においてビジネスに役立つ資料・情報を共有し市民に提供していけるよう、取り組んでいきたい」とあるので、同じ事を繰り返す感じが強い。千里で今やっているという報告を受けて、それを今後他の館に広げていくのか、協議会で指摘があったと思うが、それに関し全域でやっていくということであれば全体に目配りをした書き方が必要なのではないかと思う。前後するが、1にも気になる文章がある。「21年度に岡町図書館長から新たな諮問がなされました。」とあって、そのすぐ後ろに「この諮問は岡町館長が」とあり、くどい感じがした。「その様な状況を改善するために」と書いてあるところは、「そのような」が何を指しているのかわかりにくい。それから「地域の様々な課題解決に関しても」というのも繰り返されていて、くどい感じがする。

「図書館サービスの見える化」というところは、「見える化」というのでいいかどうか。「見える化」というのはかなり使われている言葉だとは思いますが、1番最初に出た「意見書案」の中では、この「見える化」の他に「可視化」というのもあったと思う。文字にした時は「可視化」の方が意味が伝わりやすいと思う。

次に報告の部分で、2つ目の「子ども読書活動推進と子育て支援の取組み」というところで、これは前から気になっていたのだが、「子ども読書活動推進」と「子育て支援」は確かに非常に密接な関係であり、子どもの読書推進も基本的に子どもの育ちの総体の中で「読書」をどう位置づけ、取組むかということで、「子育て支援」の側面を持っているし、繋がっているのだけれども、その事がわずかな報告と読書推進の事しか書いていなくて、関連性やつながりが表現されていないように思った。子どもの育ちのトータルの中で、子どもの読書推進をどう取組むか、という姿勢で取組んでこられたと思うので、そういうところをもう少しちゃんと表現できた方が良かったと思う。そのことと、子育て支援とがどう関わってくるのかがわかると、このタイトルもすっきり落ち着くが、中身がこれでは物足りないし、「子育て支援」が取って付けた印象になると思った。

さらに、少し細かいところになるが、表現として「子ども読書」という言葉が何カ所か出てくるが、一般的に基本理念とされていることなのか、豊中として掲げている基本理念に関わることなのかを、区別して書いた方がよい。ここは子ども読書の推進計画か実施計画かはっきりさせたうえで、掲げている内容につながっていく方がよい。また、類似の表現についても、より厳密に使ってほしい。

それから「施設に出かけてこない」という箇所については、出かけてこない人もいると思うが、出かけて来れない人に対してどうするかという課題もある。もう少し言葉使いを考える必要があると思う。それから「学校・学校図書館との連携」とあるが、ブックプラネット関連の学校図書館と公共図書館の連携を扱っているところでは、こういう表記は一つも出てきていない。ここだけ学校と学校図書館を・で繋いで表記しているが、ここは特にそうする意味があるのか私の中では判断が付きかねている。学校図書館と連携するだけでもいいのか、あえて、学校が必要なのか、そこを確認できればと思った。

●委員長

ここまでで三分の一しか進んでいないが、この調子で最後までいきますか。

●委員

次の項目だけは指摘しておきたい。

「子ども読書」のところで、1番最初の出だしのところに「文庫が活動し始めた第1期・・・の第2期第3期とすでに長い歴史があります。」と書いてあるが、ここで使っている第1期、第2期、第3期というのは子ども読書活動推進計画について報告をされた時に、豊中には計画を作る前から長い歴史があるんだということを振り返って、おおよそ3つの時期に区分して考えられると説明されたのだが、いきなり文章の中に出てくると違和感がある。もともと1期2期3期と思って活動してきたことではないし、ここでそういう言葉を使うと、その後の第1期実施計画や第2期実施計画と混乱を招くように思う。こういう時期とこういう時期とこういう時期があるという風に書いておいた方が、後の第1期実施計画のところと混乱しなくていいと思う。

●委員

前回の会議録を読み、今回送っていただいた資料に目を通し、大変レベルの高い話し合いがこの場でされていたのだと感じた。私も「中間まとめ案」を読み、1番の図書館をとりまく状況というところ、諮問がどんな事なのかと思いながら最後まで読んでいって、「豊中市の課題解決に向けた支援サービスのあり方についてという事が諮問されました」というのが書かれていたので、最初にこれを持ってきたほうがわかりやすいと思った。それから細かいところだが、「本協議会」と「当協議会」とばらつきがあるので、それを統一させた方がいい。また、カタカナがすごく多くて、言葉が出てきた時に国語辞典で調べたが、載っていない。インターネットで調べながら読み進めたので、出来たら注意書きのように簡単に言葉の意味があれば、より理解が進んだと思う。

●委員

最初に案として示されたものと比べると、豊中という地域の図書館の事だということがきちっと書かれていて、最初のどのよう考えたらいいいのかとまどうものから、地に足が着くように感じた。ここに落ち着くまで随分大変だっただろうと思う。中間まとめと書いてあるので、先程他の委員がおっしゃったような事も含めて、意見を出し合って最終的によりよいものになればいいと思う。やはり豊中という地域で、このような事があるというのがすごく説得力を生むのだろうし大事だと思う。

●委員

これに対して私は意見を4つ程出したが、図書館が大きな問題を抱えて立ち向かうというようなスタンスを感じたので、そこまで大変な事が上手くいくのかという危惧を意見として出した。それに対して今回配布された資料は、はっきり言ってトーンダウンしていると思う。現実には立ち帰ってそこらを修正されたのかなと思ったが、それはそれでいい。ただ私が意見を申し上げた中で大事なことは、タイミングの良い情報の提供、様々な情報や支援がどのようにしたら有効に提供できるのかという点が私の意見だった。そういう目で見ると、そのへんの大事な視点が消えてしまったような感じがする。グットタイミングで市民に様々な情報を提供したり支援をしたりする、そのことをどう確保するかという問題、そこらがちょっとトーンダウンして消えてしまったように見える。そういう事は文章としては書きづらいことではあるのだが。

●委員

私からは1点指摘したい。図書館協議会からの意見の方で、子育て支援の部分で、最後の「この分野における取組み経験を、他の分野の取組みに活かしていく必要があると考えられます。」という表現では、具体的な展開が想像できないと思った。どういう風に活かしていく必要があると書きこんだほうがわかりやすいのではないかと思った。

●委員

今の皆さんのお話も、どの段階の事を言えばいいのかと若干戸惑いながらされたようで、ここまでいろいろな経緯があったように思う。最初の段階で、3人の委員さんからそれぞれご意見をいただき、拝見してもっともだと思った。その後私にも意見を求められたので、出された意見をふまえて、もう少し筋がはっきりわかるようにと言った。協議会で図書館長からの諮問があって、図書館ではこういうサービスをしていて、さらに強めていきたい、それについて協議会からそれを具体化するための提言を言ってもらおうとした、こういうことが1本の筋はずなのだが、協議会の中でどのあたりまで実際に話をし、どのあたりまで共通理解として煮詰めたのか、そのあたりが皆の中であまり共通認識になっていない段階で、事務局が無理して先回りして作文をやりすぎてしまったようなところがあるかなと率直に私も思う。この話を協議会でここまでやったかなという疑問が、最初の3人の意見の中にもそれぞれ反映されている気がした。そのことが、今回は「中間まとめ」とすることになった背景だと思う。そして改めてまとめたものを見て思うことは、かなり組み換えもして書き直しつつ文章を調整していると、筋として良くなる事もあるけれども、文章としては必ずしも良くなるとは限らない。文章をいじっていると、言わずもがなことが出てきたり、ダブリが出てきたり、指示代名詞であげたものが、実は対象となる表現を消したから何を示すかわからなくなったという類のところがたくさんあると思う。だからさらに整理する必要があると思うが、細かいところは別にして、流れとしてはもう少し詰めて議論しなければならないのではないかと思う。

1のところと言う図書館をとりまく状況というのは、要するに今こういう諮問を協議会に館として投げかけて、協議会として意見を出してもらわんといかんという風に、図書館が感じた事情というか背景が書いてある。豊中の図書館はかなり頑張っ様々なことをやってきた。それが財政状況から指定管理者制度問題が出てきて、しかしそれに対して図書館は馴染まないということを協議会として言った。馴

染まないというだけでは済まないということから自己点検評価の問題が出てきた。さらにはやっぱりけっこう図書館も頑張っているが、それが社会の中で市民の中で十分認識や理解がされていないようだ、それで図書館のサービスの「見える化」ということを意識的に、普通はあまり使わない言葉をあえて使っているが、意識して見えるものにせねばいかんという。1の中で真ん中あたり「豊中市立図書館のレファレンスサービスが、いまだ市民に十分に認知されるに至っていない状況がある」というところ、レファレンスサービスとは情報提供だが、求めがあって情報提供するところがまだ弱いのだというのが1番協調されている点だと思う。それを個々の社会的に比較的強い関心を集めている課題というか、そういうテーマに結びつけつつ、レファレンスサービスつまり情報サービスという形で展開し、当面する課題に役立つようなレファレンスサービスの実態を作っていこうという。筋としてはそういう風に展開していこうとしている。我々の認識が共通しているかという疑問があるが、4つ5つ課題をあげているところで、ビジネス支援とか就業に関わる情報や、今回表現が消えているが健康などのテーマについて、個別の1人1人のニーズに対し必要な適切な情報を提供して対応をしていくという部分は、レファレンスサービスに対応すると思う。一方、子どもの読書活動の推進とか多文化共生という話になると、誰かにどんな一つの情報を提供したら結果につながってくるという問題とはちょっと違う。社会そのものが遭遇している問題、豊中だけではないけど、豊中の地域社会が抱えている大きな課題、それらへの取組みの中では、情報提供として対応するというよりも、たとえば子ども読書の場合などは「場」の提供だと思う。読む「場」を作る。共生の問題なら共生の関係やネットワークを、どうつなぐかというような話になっていく。レファレンスサービスをもっと徹底させていくために現代的課題に対してどう情報を提供していくかという話と、その対策とが噛み合っているかという問題がある。協議会からの意見として、協議会ではそこまで話をつめていないから図書館の方が考えていた意見を書いたという部分が多いけれども、協議会意見の部分はそれほど具体的ではない。特に先ほど指摘された子育て支援のところは、ほとんど具体的な中身がない。それから個別の情報提供で対応することははっきりしているけれども、どんな情報がどれくらいいるとか、どんな資料をどこまで集めるか。これに関しては先程の委員もそのへんの記述が不十分ではないかと指摘されたが、これまで図書館が購入したり備えたり提供してきた資料、あるいは電子情報も含めて、もう一まわり二まわり突っ込んだ情報提供が必要だというのがたぶん出てくると思う。消えたけれども健康のところなどはそういうことが必要になる。ただ子ども読書活動の推進とか共生の話になると、どんな資料をどれだけ増やしたらどうこうなるというものではない。そこからわかることは、設定している4つ5つの柱は、同じようなレベルのものではないものが、対応関係としては少し種類の違う課題が並んでいるように思う。図書館がどのように向き合うかということからいうと、かなり違うタイプの課題なのだと思う。そのことも含めて、なぜ今豊中の図書館が4つなら4つ、5つなら5つの課題を豊中の特性に照らして設定したかという、共通の受けとめはまだ出来ていないと私は思う。現代の課題はたくさんある。その中からあえて、そのテーマを選ぶ理由はどういうことかという問題。豊中の特性を活かして書かれていないとだめだと言ったので、そこに関しては随分書かれていると思うが。それと先ほど別の委員がおっしゃったように、どこかよその話ではなく、ここ豊中の話だということが大事だという点はよくわかる。随分そうやってきたけれども、なおかつなぜここ豊中の課題で、図書館が力を貸すことによって、解決自体はもちろん市民や地域が主体として解決していくのだけれども、この5つが特筆すべき現代的課題だということになるのか、それに対して図書館はどうするかというのが意見としては出てこないといけなわけだが・・・。この話はここでは出

来ていない話だから、ちょっとこの素案の段階では書けなかったのは無理のない話だと思う。少しごちゃごちゃと申しあげたが、協議会の一つの期の変わり目ということもあり、ある種の中間的まとめをせざるを得ないということだが、協議会での議論の進展との関係で、十分そこまで辿りついていないところをあえて文章化しようとする、いささか無理が生じるようなところがやはり否めないと感じる。

レファレンスサービスの認知ということ言えば、豊中の図書館は戦後敗戦直後からスタートした歴史があるから、それなりにやってきたに違いない。それにもかかわらず、認知が低いというのはなぜか。課題解決のようなテーマを設定したら済むという話ではないのではないか。レファレンスサービスで実績を積んでいけばいくほど、課題解決に使われるというのがレファレンスサービスなのだから、それが非常に弱くなれば、その弱いレファレンスサービスでどう課題解決するのかという堂々めぐりになる。むしろ豊中のレファレンスサービスがどういう風に取り組んできて、しかもそれでいてなおかつ市民の認知度は低いというのはなぜなのか。どういうウィークポイントを持っているからそうなっているのか。そのことをもっと明らかにするというか、そういうことを伴ってやっていかないと、いくら課題解決とかでテーマを設定したとしても、それに対して適切な資料・情報提供をやろうということなのだから、そここのところの弱さをほっておいたままでは看板倒れになるのではないか。あるいはまた間口だけ広げて大丈夫かという疑問につながってくるので、やっぱり今までの資料提供や情報提供について振り返って、今はどういう資料まで整理をしなければいけないのか、それからスタッフ1人1人が、利用者のニーズに適切な情報を提供しようとするにあたり、どのようにそういう力量をつけていくのかという問題とを検討し取り組みがあって、そこで初めて課題の解決に役立つような情報提供ができることになる。だからレファレンスサービスの弱さを課題であると認識して、取り組みを設定していることについてはそれでいいと思うし、それをもっとよくわかるようにしましょう、というのは豊中だけでなく、どこの図書館でもおそらくそうだと思う。けれども、これだけやってきたはずの豊中において、なおレファレンスサービスが不十分ということであれば、それはなぜなんだろうという疑問についての点検は必要だろうと思う。このことは協議会として考えることとは少し別の問題ではあるけれども、図書館内部においてはその検討が必要ではないかと思う。

●委員長

すごく難しい話になってきたが、差し戻して原案破棄して、こう書いたらいいという案をもう1回起草するかどうか、先程の委員の修正指摘箇所が、まだ残りの3分の2についてあるとすれば、真っ黒になりそうだがどうだろう。

●委員

協議会としての意見の3のところ、子ども読書活動推進計画のところについて、今あるこれだけの記述だといったい何なのかわからない状態でもあり、自分自身子ども読書と関わってきてはいるものの、それでもここで何を書くべきかがよくわからない状態だ。この協議会の中で、子ども読書活動推進や図書館評価システムの報告書が出た時も、それぞれのことについて協議会で報告があった。第2期実施計画に関する報告もあった。でも議題の中では、図書館の課題解決と並列に並んでいたのも、あくまで報告として聞いていた。とよなかブックプラネット事業のことは課題解決支援サービスという中で出されていたようにも思うが、あまり定かではない。それらの報告を受けて、それぞれの取り組みについてはそ

れなりに市民との連携とか、他の部局との協働で、図書館も非常に頑張って子ども読書活動推進に取り組んでこられたし、私もある部分で関わってきたことだと思いつつながらこの報告を受けていた。しかし、その事を課題解決支援サービスとしてこういう風にとらえ直すことができるのか、そのことについてどう考えたらいいいのか、さらにここに何を書いたらいいのかがよくわからない。だからここにはこう書いたらいいという提案としてまとまらないし、この項目についてははずしてもらってもいいんじゃないかとも思うくらいで、どうしていいかわからない。

●委員長

それではある程度の書き直しをしなくてはならないと思う。そこで1ページ目からポイントを絞って、こう修正したらどうかとお聞きした意見を私なりに整理してみた。

1の図書館をとりまく状況についての第1段落については皆さんご意見なかったと思う。第2段落の「平成17年の」というこのあたりはかなりご意見が出た。例えば「豊中市立図書館のレファレンスサービスが」というところで、「いまだに十分認知されていない状況をふまえ」というのが痛痒しかなという意見があった。ここを「豊中市立図書館がこれまで力を入れてきたレファレンスサービスを」としたら、ニュアンスが変わらないだろうか。現にずっと力を入れてきているのでしょ。けど市民にはまだまだ認知されていないのではないかという、そのへんを強調してもいいんじゃないかと感じた。それから文章が長いという指摘があった。2行目の「この諮問は・・・からなされたものです。」の間が5行ある。ここは文章を切ったらどうか。

「認知されるに至っていない状況を踏まえ」ではなく、「状況であること。」として、「図書館の指定管理者制度の導入に関しては、平成17年の時点で図書館協議会として、なじまないと提言した経過があるが」とか、「行財政改革の視点からの要請はその後も続いていることから、そのような状況を改善するために」というのはわかりにくいと。なんか逃げ口上みたいに見えるのではないかという意見があった。ここはもうちょっと砕きましょう。「馴染まない」と提言したものの、行財政改革の視点からの経済性、効率性、使命最大発揮の要請は続いていることなどから」とした方がもっと詳しくなるのではないか。実際はほとんどコストダウンばかり要求しているのですが、ほとんどの行革は。パフォーマンスアップってほとんど言っていないし、ミッションの明確な実行も言っていない。逆にこちらから教えてあげたらどうか。「そのような状況を」というのが曖昧なので、「諮問はその3点の視点からの改善を図る為のものですとする。だから、コストダウンは行革が言っていることで、図書館はもっとパフォーマンスを上げよう、もっと生き生き働ける仕事にしようということをめざす。本来やらねばならない仕事に絞ってやりましょう」というところで、絞ってやっていくにはどうしたらいいかと館長が諮問したのだと説明したらいいのではないか。そのキーワードとして、経済性と効率性と使命の最大発揮というキーワードを入れたらはっきりしないか。それから「その趣旨は」の文章がまた長いので、少し砕いて、文章を短めにしたらいいと思う。で、改善される為に諮問があるというわけだ。具体的には「市民生活において比較的ニーズが高い課題について図書館が取り上げ」と書いていて、「地域の課題解決に臨む姿勢を示すこと」で切って、さらに「地域の様々な課題解決に対しても図書館という仕組みが有効に機能すること」というふうに並べた方がすっきりすると思う。「見える化」については「可視化」に戻すことにしよう。それから「豊中市立図書館の課題解決のあり方についての諮問がなされました」という文章が1番最後にきているので、その趣旨はトップに持ってこよう。「これらを踏まえて豊中市立図書館の課題解決サー

ビスのあり方について諮問がなされました。そしてその趣旨は・・・」と逆にしたら、だいぶすっきりすると思う。

それから次に指摘があった、「本図書館協議会」と「当図書館協議会」は、「本市」に統一しよう。

●委員長

「今回はその一端をまとめたものを中間まとめとして報告するものです。」これはこれで正解だと思う。きちんと全部議論しきっていないということだから、議論の一端をとりあえずまとめましたとして、そこで出ているのが現在の議論の水準ですということを示すと思う。

次の2で、中黒で羅列されているビジネス就業支援サービスから行政支援・庁内への情報サービスに至るまでに5項目あるが、これはナンバーを入れたほうがいい。①②③④⑤というように。すると、3の協議会からの意見も①②③④⑤と対応する形で響き合う関係になりやすい。それから次の2ページの段落で、千里の話が中心になっているのに、途中で「豊中市全域に対する」というので話が飛ぶという指摘があったが、そこは「また千里地域だけでなく」ではなくて、「これらの取組みを豊中市全域に及ぼしていくことを目標としています。」というふうに持っていったらいい。全市に及ぼすようにするのを目標にすると表現することで、千里が出てきてそのあと豊中全域とあり、また南部が出てくるという印象の悪さが解消できないか。そうすると、下から3行目「豊中市の全域に目を転じると」と言いながら南部の話が出てくると指摘があるならば、「豊中市各地域に目を転じると」と逆にしたらいい。「例えば南部の庄内近辺には」と、「そのような企業との連携において」と、千里の事例と庄内の事例からそれぞれの館が学んでいきましょうという表現にできないか。たぶん指摘された委員の印象は、千里と庄内だけが突出していて、他の全館に及ぼしていきたいと書いてはいるけど、それはできないのじゃないかという印象があるのだと思う。それを取り除いていきながら、「各館に展開していく」と変えたらいいのではないか。

第1期、第2期、第3期は大きなお世話とおっしゃいましたね。それはそっちから言ってもらうことじゃないと。勝手にこちらが市民活動を総括してはいけないということでしたら、1960年代と表現しているから、1970年代あるいは80年代というように、年代で区切ったらどうか。これは客観的事実としていいのですね。

●委員

年代で区切ってもいいし、第1期、第2期、第3期をその時期その時期と置き換えてもいいかなという気がする。

●委員長

そういう総括は子ども読書関連の中ではやっていないという事ですか。1期、2期、3期だなんて。

●委員

定着した話になっていないと思う。分けることが悪いことじゃないが、そのように1期、2期、3期と考えても悪くないが、この文章の中でそう書いてあると落ち着かない感じがする。その後ろの表現とだぶるので混乱を招くかと思う。

●委員長

子ども読書活動推進計画の第2期実施計画という表現とだぶるという意味ならば、むしろ何年代と入れておいた方がいいのかもしれない。例えば1960年代に子ども文庫が活動を開始し、70年代、80年代、90年代半ばの子ども読書年から現在に至るまでのと繋がっていきますね。そうすれば、次の子ども読書活動推進計画第2期実施計画というのと重ならなくていい。それから、子ども読書活動推進計画と子育て支援をとってつけたみたいだという指摘、ここは少し文章を足したら済むと思う。

●委員

そのような文章の問題は、まだいろいろあると思うが、私がすごく気になったことは、図書館の現状にまつわる図書館側の努力不足についての自己評価の姿勢が読み取れないこと、そのことが心配だ。これは、さっき委員が言われたように、レファレンスサービスが弱いといいつつ、なぜそれで課題解決ができるのかということにもつながる。委員長が言われたように、レファレンスサービスについて豊中は頑張ってきたと書いていいものかというのが私の疑問だ。ずいぶん前の協議会で、レファレンスに関しては数値として出されていないかという話を通じて、レファレンスに関してどう取組むかという話が出たと思う。そして昨年も一昨年も数がそんなに増えていない。そのことは、大事な事に関わる工夫が何か足りないのではないかということだと思うが、そのような自己分析を図書館側が本来ならもう少し考えないといけないはずじゃないかというのが根底にあって、自己評価の姿勢が読み取れないという風にした。そういう事が欠けているのじゃないかを感じる。実際に図書館はすごく多岐に渡って市民に対するサービスをしているわけで、それはすごいことだと思うのだが、そういうことは評価した上でレファレンスサービスが弱いのはなぜかというところ、そういうところの追及がすごく必要ではないかと思う。

●委員長

そのためにはどうしたらいいかという提案をしていただきたい。

●委員

そのためにどうするかということでは、レファレンスサービスがなぜ数字的にあまり増えないのか、そういうことをしているというPRの仕方が足りないのではないかということとか、もちろんカウントの取り方もあると思う。どういう風にカウントすべきかは素人なのでわからないが、本当に図書館だよりなど使ってレファレンスサービスが常に周知されるようにPRされているのかとか、その振り返りがもう少し必要じゃないかというのが正直なところである。

●委員長

何か子育て支援に繋げるいい知恵がと思ったが、また次の注文が出て課題が増えたようだ。子育て支援については、何か言葉を足せばなんとかなりそうだ。結果的に子ども読書活動推進は子育て支援と深く繋がっているんですよ、というあたり繋がりが悪い。ここはもう少しだけ言葉を足したらよいということだと思う。

それから「施設に出かけてこない居宅の乳幼児と保護者への情報提供について」というのは表現を変える。今後の課題としては、施設利用があまり高くないとか、そういう科学的、客観的な言い方に変えた方がいい。出かけてこない方が悪いということではないから、そこは乾いた言葉に変えた方がいいかもしれない。施設利用頻度が相対的に低いということをあらかず表現に変えよう。

それと最後の段落、「学習活動を支援し、学校・学校図書館と連携し」への指摘があった。

●委員

「学校・学校図書館」という書き方はここだけだ。公共図書館と学校図書館との連携というのはでてくるが、学校という表現は他にない。

ここでいう学校は学校図書館とは切り離して、学校とも連携が必要で、学校図書館とも連携が必要だというように、両方との連携が必要というのをここで明記する必要があるのならば、この表記となるが。しかし学校図書館は学校の中であって、学校の中で機能する。公共図書館は学校図書館を支援することを通じて学校を支援しているけれども、そこで「とよなかブックプラネット事業」でずっと学校図書館と公共図書館の連携と書いているので、ここだけあえてこう書く必要があるのかどうかという確認をしておきたい。

さらに追加しておきたいこととして、子ども読書活動推進において課題としては、そのような出てこない居宅の乳幼児と保護者、小学校高学年から中学生にかけての読書離れなど、また他にもいくつか課題が見えてきたという部分で、「これから自主的な読書活動を大切にしながらも」と、ここに2つ挙げているが、そのことだけを書いておくのでよいかという疑問がある。今後の課題に関して、子ども読書活動推進にかかる評価報告にあることがらを全部書くと長くなると思うが、でも全体を通した文章にした方がいいと思う。これだと高学年からの読書離れに対する対策という部分しかないという気がする。全体を踏まえてどうしていくということが出てきていると思うので、そのへんを視野に入れた文章が必要だと思う。協議会の中では子ども読書活動推進のところだったか、図書館評価だったか、高校生に向けての取組みがあまり見えてこないという指摘があった。そういうことも無視しているように思われるので、そのあたりをも視野に入れた文章が必要じゃないかと思う。

●委員長

それは例えば4つか5つ課題を並べておいた方がいいということか。

●委員

実際どう書くか具体案までではない。

●委員長

量的なことを考えると、この子ども読書活動のところで課題を並べ、とよなかブックプラネット事業でも課題を並べ、多文化・共生でも並べるとなってくると、全体のバランスを考えないといけないということも出てくる。そのへんを考えてみたいと思う。言おうとされる事はわかるが、欲を言えばきりがないところもあるので、文章が少々長くなってもすべきことかどうかを考えたい。ましてこの部分は行政側の認識のところだから、行政側に向けてそんな認識しかないのかと言うこともできるが、むしろ

大事なのは、協議会側の意見にどのように盛り込むかということで、そのあたりの意見を増やしていきたい。前の方に課題を並べたほうが良いという件は、むしろ入れるべきと僕は思う。後ろの協議会の方の意見が短いところを見て、決めていただきたい。

●委員

一つのことについてだけこう取組んでいきたいと書くからバランスが悪くなるのであって、複数のそういう課題を踏まえて、取組んでいきますみたいにまとめて行く方が、読む時にはすっきり読める。

●委員長

それでは、複数の具体的な課題を入れる。それを受けた形で、協議会報告の方に継ぎ足す、そのような加工修正でいきたい。学校・学校図書館と連携と2つ並べるのかということについては、事務局側の見解を後で出してほしい。

それから学校教育支援のところに関しては、特段のご意見が出ていません。次の多文化・共生の取組みについてはどうか。

●委員

段落変えについて、見た目の体裁が悪いというのもあるが、ここの「一方学校教育現場では」というところは、このような状況となっていて、そこで学校図書館活性化に取り組む、と私はこの文章を読んだ時に一応学校現場では次々に課題が出てきて、それに向けて研修や取組みに追われていて忙しい、だから学校図書館をどう使っていこうとか、なかなか上手くいっていない状況がある、だからそれを打破する為に学校図書館を更に活性化させていくという、そういう意味合いと受けとめたが、それでいいか。ここは段落変えなくても繋げてまとめることができると思う。

●委員長

段落は一つに繋いでみましょう。

4番の多文化・共生と協働事業の取組みのところは、特段意見がなかったと思う。次の行政支援・庁内への情報サービスのところ、ここもなかったと思う。

それでは3の図書館協議会からの意見に入る。豊中市立図書館のビジネス・就業支援サービスについて協議会からの意見のところ、ここに関して意見はなかったが、豊中市立図書館の子ども読書活動推進と子育て支援の取組みについての協議会の意見のところ、これについてはちょっと短すぎると、もう少し意見を入れようと思うと、前の現状の認識のところ課題を並べた方がよいということになると、これに対して協議会としてのコメントも入れていく必要がある。注目していきますとか、期待していきますとかそういう書き方でもいいのではないかと。どうすべきかということまで議論はしなかったのだから。報告は受けただけでも、協議会としての姿勢が書けないなら、注目しますとか、今後の発展に期待しますとは書いていい。それ以上は言えないから。

それから次の豊中市立図書館の学校教育支援「とよなかブックプラネット事業」について協議会の意見、「しょうないREK」について協議会の意見、行政支援・庁内への情報サービスについて協議会の意見、というところも今のところ意見は出ていない。

最後のまとめのところ、ここではレファレンスサービスを通してという以上になんらかのPRの強化について入れたらどうかという指摘だった。

●委員

例えば行政支援サービスについても、ほとんど知られていないのが現状だという。「あまり知られていないのが現状でした」という表記で、それに対してこういうことをしたと、知られていない現状をなんとかしようとする工夫がここに書かれている。本当は、あまりよく知られていないようにしてしまったという振り返りがたぶんあって、PRしようとか、それに対する工夫について、もっと行政支援サービスの認知度を上げて、サービスを受ける職員を増やそうとか、それで市民に還元されるだろうというプロセスがあると思うのだが、ただ知られていないのが現状でしたというだけだ。もう少し表現のしようがあるのではないかと思う。レファレンスサービスでもそうだが。そんなにくどくどと内容を書く必要があって、それに対する努力がやっぱり足りなかったところを認めるからこういう工夫がある。その姿勢が少しあった方がいいのではないかというさっきの意見の追加だが、だからPRももちろんだが、どのようにレファレンスサービスが行われるか、専門家の職員の方がそのへんはわかっているはずなので、PRも含めた方策がもう少しあっていいんじゃないかということだ。うまく説明しにくい。

●委員長

提案する。まとめのところの4段落目「本協議会としては、市民がこのサービスを利用し」の間に「図書館側からのPR強化とあわせて」と入れてはどうか。要は図書館がより身近な存在になるように希望しますということだが、この文章や実際はサービスを利用することで身近になるという流れだから、その前にPRの強化というのを入れたらどうか。一言で言えば、PRをしているはずだけど有効なPRになってないのではないかということだから、それをちょっと入れたらどうか。

それから別の委員が指摘された点、地域課題解決支援サービスのところで、「地域が大事とするところが、サービスの在り方に自然と現れてくる、その事が大切であり」のところは、日常言葉を文章にしているのが、少しこなれが悪い。だから地域のニーズと対応し、かつ的確なタイミング、タイミングという言葉を使っていいかな。地域ニーズに適切に対応した、かつ適合する情報共有が求められる。それに受け答えするのが、大切であり、地域に根ざした図書館の在り方だと。「地域が大事とするところが、サービスの在り方になるので、」という風になっているが、地域ニーズに的確に答え、そして応答する、行動する、そのような図書館の在り方が大事だ、という書き方に変えてはどうか。要するにレスポンスの重要性を指摘されたのでしたね。

●委員

はい。タイミングとか。

●委員長

サービスの供給の中身じゃなくて、レスポンス。応答速度とか。思い切ってレスポンスという言葉を入れてもいいと思う。反応とか。するとまたカタカナが増えてしまう。

一つ宿題が残った。これは4ページの1番下、「この分野における取組み経験を、他の分野の取組みに

活かしていく必要があると考えられます。」要はもうひとつ想像しにくいのではないかとということで、何か良いアイデアを出していただけませんか。

●委員

急には思いつかないというのが実際のところで、他の分野というのが何を指すのかわからなかったの、考えようがないというところである。

●委員

私はこの文章の前の文章もわからない。「市民と民間事業者と行政の関連部局が協働で取組むことが、地域課題解決への取組みそのものとなっており、」とあるが、そうなのかというところもあり、ここはよくわからない。

●委員長

とりあえず書き直してもらいましょう。ここは前段の行政側の取組みをうけた、こちら協議会側の意見だから、前段の子ども読書活動推進についての報告を受けた形で、それをどういう風にこちらが期待するかとか、こういう方向にいてほしいという文章でいいと思う。私も見ていながらあまり気付かなかったのだが、前の行政側の現状というのに対して、「市民と民間事業者と行政の関連部局が協働で取組むこと」とは具体的になにがあるのか、民間事業者っていうのはどういう団体のことを指しているのか。

●館長

私立の幼稚園とか保育所等を指す。

●委員長

それではやはり事業者としてはまずいだろう。いっそ公立・私立を合わせた幼稚園と書いたらどうか。民間事業者と言ったら、企業とか商工会議所みたいなところが協力してくれているように聞こえる。少し加筆するとすれば、「協働で取組むことが、地域課題解決への大変有効な」とか「有効性を発揮することが実証されており」とか入れた方がいいのかもしれない。

●委員

この文については私も民間事業者という言葉が何を意味しているかよくわからなかったのだが、子ども読書活動が評価されたことというのは、子どもの暮らしの総体の中に読書をとらえるという言葉があるように、子どもが本を手に行っている様々な場がバラバラにあったが、一つの繋がりの中で子どもが本を手に行うことになり、そういう機会とそれぞれお互いを知るようになったということ。あるいは繋げて考えようという取組みが出てきたということだ。これが子ども読書活動推進計画に取組む上で、あるいは計画作りの大きな特徴だと思うし、確か豊中はシンポジウムもやったと思うが、そういう部分が豊中では見られるということがここの中身のはずだが、やはりその内容がこの文章だけでは読み取れない。また、そこで出てきた関係がストレートに地域課題解決であったというふうを受けてしまって、それをさらにあらゆるところに広げていくというのは、ここは言葉だけで跳んでしまって、中身の裏付け

がない。もうすこし丁寧に言葉を補わないといけないところだと思う。言葉だけが走って中身が抜けている。4、5行で済む話ではないと思うので、書き換える必要があると思う。

ついでに言うが、まとめに相当するところについてだが、さっき申し上げたように、問題の弱さは図書館の情報サービスが十分にやれていないことだということから出発しているけれども、こうして5つくらいの分野を見て来て、そしてそれに対応していく中身がもう少し具体的に出せればと思う。何が問題かという、一つはレファレンスサービスがそうであるように、資料や情報を必要としている人に適切にタイムリーに、そしてこれまで提供してきたものをもう少し踏み込んで情報サービスをするということが一つ確かにある。これは個別のニーズに対応するという意味で、ビジネス支援やあるいは子育て支援についても、私はそういう部分を含んでいると思う。行政サービスもそうだと思うが、まさにそれぞれの担当者が直面しているその事についての資料や情報提供になると思う。ところが、もう一つの側面がある。多文化・共生とか子ども読書活動の推進というあたりになると、これは誰に何を提供してどうなるというものではなく、むしろ地域の中にある作業や活動を関連付けて、そしてこういう仕組みがこういう問題に対応する場ですよ、ということを紹介するという意味では一つの情報提供に違いないけれども、それだけでなく図書館自身が、資料や情報を提供する図書館が介在することでいろいろなことを関連づけられるというような在り方。そういうことがそうした問題の解決にはならなくても、前進の役に立つのではないか。だから「関係づくり」というのが対応の中に出てくるのではないかと思った。個別の資料情報提供と地域の様々な活動を関連づける、そういう作用が図書館の働きとしてあり、課題解決の支援をするということにつながるのだと。大きく2つの方向性を提供していけば、この5つを、決してこの5つに問題を固定するわけではないけれども、例えば市民の関心の大きな領域としては、というぐらいでこの5つのケースを取り上げてきて言えることとしたい。さらにそれを進めていくにはということ、今後の課題に結びつけていくという展開にすればどうかと私は思う。

●委員長

はい、ありがとうございます。

●委員

前回の会議を欠席したため、この文章を読ませていただいても正直よくわからないなと思った。でも自分の責任範囲ということで、2ページの学校教育支援の取組みの「とよなかブックプラネット事業」に関するところを読んでいると、現場にいるからよくわかるのだけれども、下から5行目の「すでに一定の水準にあるといえます。」その次の「学校司書の全校配置及び学校図書館担当者の任命などの環境が伴ってから、かなりの年数を経ているからです。」と全然繋がっていない。ここところが繋がっていないのが実感である。次の行の「学校教育現場では、非常に多くの課題が次々と新たに示され」というところと、とよなかブックプラネット事業をするんだということがうまくかみ合っていないので、もし書き直しが可能ならば修正をお願いしたい。

●委員長

少し具体的をお願いしたい。今おっしゃった、「すでに一定の水準にある」というところについてはどうなのか。

●委員

確かに一定の水準にある。あるけれども、司書の全校配置とか司書教諭の任命とか、かなり環境も伴っているけれども、かなり年数が経っていることで、逆にだからこそこに新たな課題が生まれているということがあると思う。今一定水準にあることはあるのだけれども、時間が経てその事の意義が薄れていて、学校で十分に使いきれていないということが課題だと思う。その一方で常に学校現場では新たな教育課題が提示されているために、私達自身も学校図書館教育とは違う、新たに示された教育課題の研修や取組みを進めていかなければならないという状況にある。そういう中で、学校図書館そのものはある程度の水準を保たれているけれども、時を経ち新たな課題も増えて、上手く活用することができていないから、新たにとよなかブックプラネット事業をここでもう一度興そうということだと思う。

●委員長

「かなりの年数を経ているからです」というのが曖昧だということですね。

●委員

年数を経ているから、学校図書館を十分に活かせなくなっているということ課題だと思う。

●委員長

文章としてなんとか繋ぎたいが、どうするか。

●委員

はっきりと、「環境が整ってきました。」と切ってもいいが、しかし学校図書館が有効に学校教育の中で活用されている状態とは言えませんとか、委員がおっしゃったような事を書きたい。今私が言った言葉が正解ということではなく、そういうような表現で、年数が経って、それが有効に活用されているかというところではありませんという事をはっきりとここで書いた方がいいのではないかと思う。

●委員長

それでは、はっきりしたらどうか。環境が整ってきた、しかしながら学校教育の中で学校図書館が十分に活用されているとは言い難い実情があります。

●委員

その原因としては、新しい課題がどんどん出てきていることがある。

●委員長

「一方」ではなく、「さらに学校教育現場では非常に多くの新たな課題が示され、解決する為の研修や取組みに追われる状況となっています。」と2つ重ねて書く。

●委員

今、「追われる状況となっています。そこで」というのが噛み合っていない。

●委員長

何かを足さないといけない。これらに対処するためということではないのか。

●委員

そうなのだけれども、この部分を読んだ時に、「追われる状況になっています」ということと、学校図書館を活用を活性化させるというのがどういう繋がりがわからないと思う。私はそういう状況になっていて、本来もっと活性化していなければならぬはずの学校図書館が活性化していないからもっとそこに力をいれましょうという繋がりがなと読んだが。「一定の水準にあると言えます」とあり、その一定の水準にあることを念押し意味合いで、学校司書さんもいるし、司書教諭さんも任命されたしと、私はそう思って読んだけれども、繋がってなくて読みにくい文章であるというのが改めてわかった。

●委員

「一方学校教育現場では」という2行は削ったらどうか。取ってしまうと、かなりの年数をかけて学校図書館が十分に機能していない状況にあります。そこで学校図書館をさらに活性化させて。学校は今大変なのですよという状況説明をここで入れてしまわなくてもいいと思う。

●委員長

そうしましょう。

●委員

僕もそう思う。なくていいと思う。学校図書館の活性化と出てくるけれども、図書館を活性化するよりもむしろ、図書館を教育活動で活用するという事実が出てくれば、図書館は活性化する。図書館の活性化そのものが目的ではないはずだ。前段で、一つの環境として学校図書館整備が施策として相当程度まで出来ていたとある。問題はそれを活用して豊中の教育がよくなるというそういう事に、先生方1人1人がそれに対応できるサービスをしなきゃいけない。それは結果的に図書館の活性化ということになるのだから。活性化することが課題ではないのであって、図書館を活かした教育に取り組んでいくという段階にあるのだという、こここのところを抑えておけばよい。あとの協議会意見等々を通じて、これからの方法として教師・先生達1人1人が、図書館の機能に気がついたり図書館を使う教育を頑張る。そこで教員支援活動も出てきて、と繋がると思う。この2行は、次々に出てきたからどうだという話だからここで出す必要はない。

●委員

すいません、学校教育支援のところの最初の2行の「豊中市は」というところから、「開始しました。」というところ。それから次の3ページの2行は同じことを言っている。どちらかを省略した方がいい。それと4ページの子ども読書活動推進と子育て支援の取組みのところを書きかえるということになっているが、書き換える際に「子育て子育て支援・次世代育成から、」というところは、それぞれ意味が違う

ので、この子育て子育てを使うならば、次世代育成と・では繋がらないだろうと思うので、書き換える際にはここも修正をしていただきたい。

●委員長

次世代育成はここだけに出てくるのか。現状認識のところでも次世代育成は出てこない。では修正しましょう。

それではちょっと読みあげてみるので、確認してほしい。

最初の6行目から7行目までは意義ですね。7行目の最初は「などの環境が整ってきました。」で切る。次に文章を変えて入れる。「しかし学校教育の中で学校図書館が有効に活用されているとは言い難い状況があります。」あるいは「十分に活用されているとは言い難い実情があります」としたら言いすぎか。

「十二分に活用されているとは言えません。」にして、次の2行はカット。「そこで学校図書館の活用をさらに進めていく必要があります。」

「そこで学校図書館の学校教育における活用をさらに進めていく必要があります。」にしませんか。

以後の文章は全部カット。同じ言葉が反復しているからいらぬ。

ということではいかがか。

●委員

とよなかブックブラネット事業そのものが、学校教育の中で学校図書館が十分有効に活用されていない状況を踏まえて出てきた側面があると思う。それは割と周知の事実であるから、十分にでいいのじゃないかと思うが。そのあたりは豊中では共通認識が出来ている状況だと思うが、いかがでしょう。

●委員

十二分でお願いしたい。

●委員長

十二分と書いてもインパクトは相当あると思う。まして学校教育において学校図書館の活用をとということが、今までになくここにかなりきっちりと示されると思うので。

さて、皆さんまだおっしゃりたいことはおありと思うが、そろそろ終了にしたい。

言葉が重複しているとか、代名詞が散在していることについてはまだ整理の余地があるが、事務局と委員長代行と私の方で調整をさせていただくということではいかがか。よろしくをお願いしたい。

今日のことを踏まえて修正を加えるということで作業をさせていただく。

以上で討議することはあらかた済んだが、他に事務局の方から何かあるか。先ほどの「学校・学校図書館」の件は、そう書いた方がいいのか、学校図書館とした方がいいのか、そのことだけお返事いただけたら嬉しい。2ページ目の子ども読書活動推進と子育て支援の取組みの最後の行だが。

●事務局

ここは、ここにだけこの表現が入っているので、なくてもいいと思う。

●委員長

では学校図書館だけに修正する。
事務局から何か報告があるならばどうぞ。

●事務局

吹田市との広域利用を開始したことについて、簡単に報告させていただきたい。両市民の図書館利用の機会を広げるために、全域ではなく吹田と豊中の市境の3館ずつを対象にして、豊中市においては千里図書館、東豊中図書館、高川図書館の3館、吹田市におきましては千里図書館、江坂図書館、千里山佐井寺図書館の3館を対象にして、5月1日から試行実施を開始した。4月1日から事前登録を行い、5月1日から実施した。2か月も経っていないが、利用状況について少し説明させていただくと、豊中と吹田の割合については、豊中の図書館の利用の方が多くて4：1の割合になっている。豊中の中での利用割合では、千里図書館がそのうち9割くらいの利用状況となっている。以上、ご報告させていただいた。

●委員長

今のは報告なので、特段ご意見がなければよろしいか。
それでは恒例に基づき、今日も傍聴をいただいたお二方から何かご意見ご感想をいただきたいと思う。

●傍聴者

お疲れのところ申し訳ない。市民レベルで意見のやり取りをしていただいたので面白かった。御苦労さまと申し上げたい。先ほど委員長さんがおっしゃった、子ども読書活動推進と子育て支援のところに挿入する言葉に関して、委員長さんと副委員長さんとお考えいただくということで、感想文の中に書きいれましたので、ご覧いただきたいと思う。

今日は学校図書館を考える市民の会として、委員長さんが遅れてこられたのでお断りはできていないが、協議会を終わられて、お帰りになる時に冊子をお持ちいただきたい。と言いますのは、昨年度末から島根県の学校図書館の取組みに学ぶということで、協議会でもDVDを見ていただき、市民の会で堀川先生の講演会も行い、教育委員会の方でも島根県教委の牧川先生の講演会や研修会をされて、島根県の学校図書館の取組みに学んできた。非常に学校図書館は重要視されておりますので、市民の会が行った講演会の記録を、やはりやりっぱなしではなくて、学校現場の方でも使っていただきたいと思い出したので、委員の先生にも読んでいただきたいと思い、お帰りにお渡しさせていただく。よろしく願い申し上げます。

●委員長

今、傍聴者がおっしゃった子ども読書活動のこの部分については、協議会意見は委員長代行とも相談の上作らせていただくが、ご意見があれば出していただきたい。それも加味するのでよろしく。他の委員さんからも出てくるでしょう。いつまでにやったらいいだろうか。この報告書の提出期限は。あまり先まで寝させておくと逆にわからなくなってしまうので、7月中旬くらいに出せないか。ここはこう直してほしいというのは、もう充分議論がなされていると私は理解しているので、それをい

ただいたうえで、三者で文章作成したい。そんなに手間のかかる作業ではないと思う。
それでは所定の時間を過ぎたが、これをもって第1回豊中市立図書館協議会、現メンバーでの最終の協議会を閉会させていただきたい。皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。

●事務局

それではこれで、本日の図書館協議会を閉会する。